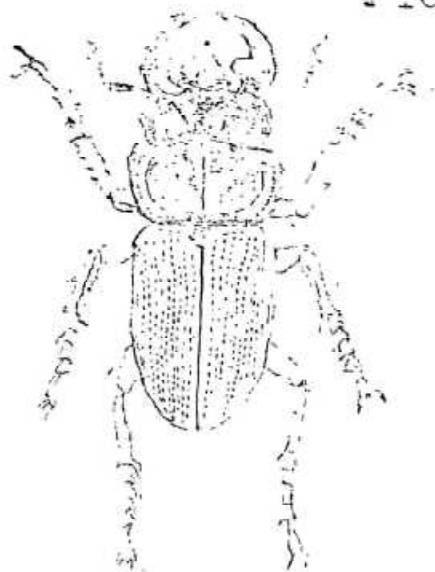


すずし

Vol. 4

No. 1

〔1954年1月〕



Dorcus. sp. ?

(図表頁 6 参照)

倉敷昆虫同好会

目 次

1954年1月号(第4巻第1号)

岡山県の蝶類に関する

文献目録及び解説(1)

広瀬 義躬

Page
1

おとしぶみ (No. 271 ~ 278)

分布資料

| | | |
|------------------|-------|---|
| 児島郡産の昆虫数種(II) | 古市 景一 | 5 |
| 大山にゴースムオオキノコムシ産す | 船越 俊平 | 6 |
| 道後山のモンキゴミムシダマシ | 小野 洋 | 6 |
| 黒田産甲虫雑記(II) | 広瀬 義躬 | 7 |

生態資料

| | | |
|------------------|-------|---|
| シオカラトンボの交尾時刻について | 広瀬 義躬 | 7 |
| ヒメの燈火飛来及び夜鳴き | 古市 景一 | 8 |
| キアゲハの食草としてのナツミカン | 広瀬 義躬 | 9 |

形態資料

| | | |
|------------------------|-------|----|
| 腹部に一翼附着物を有するモンキキョウについて | 広瀬 義躬 | 10 |
|------------------------|-------|----|

雑 報 …… 4

岡山県の蝶類に

関する文献目録及び解説(1)

広瀬 義 典

はじめに：現在本県の蝶類に関しては、学会や愛好会による種々詳しい知見が生れ、部分的にはあるが類々不明さの多いものがある。そして現出する文献を逐つて行くに当たっては、ぐまりの足跡となる過去の記録を知ることが極めて必要なことであると思われるが、これらの記録は一般に行き届くには及ばず知られていない。このような現状に際し、この種の文献に関して記しておくことは急務であるのと考えるので、少くながらも、ここに私の採集した文献を目録として掲げ、そのについて簡潔に解説を附して愛好者諸氏の御参考に供したいと思う。

先ず本稿では現行日に筆者の実際に採集したものののみは集むることとした。今後なるべく実際に見たもののみ記すのが行きたいと思っている。尚今本稿は急に思い立ってまとめたので色々不備な處が数に多いと思う。望む他何正を請りたい。本目録の作製に当たっては、主として岡山大学太郎農業生物研究所図書館を利用し、又学会の員小野清氏の多大な援助を受けた。ここに記して深く感謝の意を表す。

1) 原田義三(1933)：岡山県南郷地方の蝶類。昆虫學 Vol. 1, No. 4 pp. 4.25—4.30

(岡山県野外で採集された資料25種を記載し、その内にはミナシヨウワ、シジミサヨウ、ゴイシシジミ等極めて珍しい種を含んであり、この報告の記す全般から推して、この著者が全くの素人で、実地感による採集したものを挙げてはめた程度の間でらしく、これらの種は資料が甚少で例へばコムスジ、ヤマトシジミ等の幼虫や成虫(卵)と共ならぬ(その信用度は非常に低い。)

2) 成瀬安徳(1941)：フスロヒョウモン^{モドキ}の産地。昆虫學 Vol. 9 No. 93 p. 791

(吉備郡足守町在任の向野幹男氏によりコヒョウモンモドキとして送附された標本をフスロヒョウモンモドキと特定し、採集地美庭郡勝山町をその1産地として記録す。)

3) 小塚和彦(1946)：岡山県産蝶類目録。岡山博物同好会々報(予報)、其ノ1

2(2)

(岡山において県下全般に亘る蝶類のまとまった報告が少くとも3つ位あるらしいが、本報告はその1つであり、その内でも最も新しいものと云える。しかし現在の知見からすれば、誤記の相当に多く、訂正すべき箇所は枚挙にいとまなき程であり、記述も簡単であって極めて不完全のぞしりを免れない。

まず県下を地形的、気候的觀察から南部、中部、北部、最北部の4地域に分けて、本県産蝶類として8科116種を挙げ、注目すべきものにはその所産地域を記入している。その内特に注目すべきものとしてはコノマチヨウ(南部、珍奇) オオイチモンジ(北部-津山付近片山山山により採集、南部-1尾島により採集) イシダアチヨウ(1940年 作野にて川原町採集)等があり、いずれもこれらの記録は確かな根拠があるものらしい。現在本県産蝶類ほどの数の調査によって少くとも120余種を数えるものと思われる。)

4) 奥谷誠一(1947) : ニミ昆虫の分布、採集と飼育 Vol. 9 No. 8/9 p167

(岡山市金山(標高499m)に於ける1946年の所産の蝶類としてウラキモンジとミミズ約1匹を採集し、内3個を採集し、当山に本種の産するを確證、大塚郊外等と同様、特に本種の産出地に産する例としてこの所産を記す。)

5) 小野洋(1949) : 倉敷周辺の蝶についての研究(1)、倉工文化 Vol. 2 No. 3 pp3-6

(倉敷に於ける資料が限られたまとまった報告である。ここでは基礎として本地方の蝶類は懇意に説明され、現在ではもう殆んど追加産出地を認め無くなっている。本報告では本地方の地形と蝶類との關係を論じ、同様に確證なる記録は計6種を挙げる。)

6) 小野洋(1950) : 倉敷周辺の蝶についての研究(2)、倉工文化 Vol. 2 No. 4 pp. 1-3

(前報に引続き本報告は今年と興味ある種としてオトゲアザハ、アサマダラ スミヤカシ、イチモンジチヨウ、ホシミスジ、ウスイロオナガシジミの各名を挙げ詳細に論じている。又記録不全の種としてチヨウセンシロチヨウ、ミンキアゲハ等、今後発見可能性ある種としてラーダテハ、トラフシジミ、シレグイアシジミ、ダイミョウロゼリ等を挙げている。)

7) 小野洋(1950) : 倉敷の蝶、Shell (岡山大学科学会雑誌) No. 11 p. 11-17

内容は先の方の倉工文化所産の一文と殆んど重なりはない。しかし既に説明で

た。〕

8) 田内亮(1951): 中国山脉中部の蝶。蝶と蛾 Vol. 2 pt. 2 p. 12

(1944)年7月4日真庭郡勝山町(標高約500m)で行った採集でその採集地中9種を記録す。その内注目すべきものはキマダラリッパメ、ヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、ウラジロミドリシジミ。角があり、特に後2者を珍種と報じているのは注目値する。〕

9) 西村公夫(1951): 奥西のシータテハ。蝶と蛾 Vol. 2 pt. 2 p. 12

(本産が奥西、近畿 岡山のお早境界附近に多く、特に秋期に多いと云う。岡山県別では御阪ノ山、禰山等とその産地として挙げてあり、禰山附近にも産すると云う。〕

10) 小野洋(1951): 岡山県のギフチヨウ。新昆虫 Vol. 4 No. 7 pp. 39-40

(承らるる本産の産地記録もなっていないが本産に真庭郡勝山町採集、全勝山町神子の2産地にも産地報告)。この報告によって、戦前から産地報告により産地知られ、その後州域誌の目録にも記録されて本産の産地を向ては産地となつてはいたが、一般には知られていなかった県下のギフチヨウが知られる世に出たのである。〕

11) 広瀬辰躬(1951): 各産地附近の採集について。特産(岡山大学教務部師範部附属中学校校友会の誌) No. 15 pp. 42-44

(この産地報告に於て記載したウラジロミドリシジミ、シロライアシジミ、ツルマキチヨウシの3種及び新産地産地として採集地を記述していたヒョウモンキアラの産地報告に於けるにも多くが産地を産地とし、産地を産地とする産地。〕

12) 小野洋(1952): 産地ウスイロヒョウモン。新昆虫 Vol. 15 No. 4 pp. 32-39

(産地が真庭郡勝山町と産地が真庭郡勝山町(標高約500m)の1産地、岡山県を産地とする1産地を産地とする1産地を産地とする1産地。〕

13) 小野洋(1952): 産地ウスイロヒョウモン。新昆虫 Vol. 15 No. 4 pp. 32-39

(産地が真庭郡勝山町と産地が真庭郡勝山町(標高約500m)の1産地、岡山県を産地とする1産地を産地とする1産地を産地とする1産地。〕

〔資料 10 福井県知事宛に送る文紙と云える。〕

① 『日本植物志』(1952)『植物の地理』p. 17

〔『植物志』のクロウツバシジミ、市外黒田のウスロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、アママイモシジミ、シルヴィアモシジミの記載がある。〕

② 『福井県誌』(1953)『緑山の自然誌』(福井県誌 Vol. 3 No. 1 pp. 47-52)

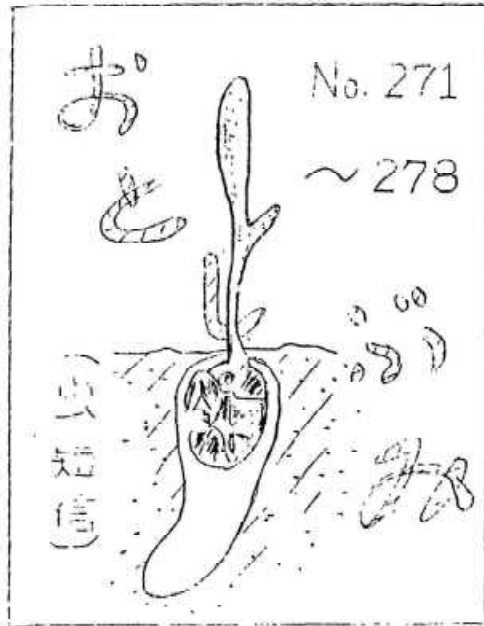
③ 『昭和22年夏行の福井県「緑山の自然科学調査」の調査報告(一)福井県知事宛に送る文紙』(福井県知事宛に送る文紙)の記述が詳しい。他にウスロヒロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、ウスアカミドリシジミ、ダイロンシジミ、コマシジミ等注記されている。

④ 『福井県誌』(1953)『緑山の自然誌』(福井県誌 Vol. 3 No. 1 pp. 47-52)の記述が詳しい。他にウスロヒロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、ウスアカミドリシジミ、ダイロンシジミ、コマシジミ等注記されている。また、『福井県誌』(1953)『緑山の自然誌』(福井県誌 Vol. 3 No. 1 pp. 47-52)の記述が詳しい。他にウスロヒロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、ウスアカミドリシジミ、ダイロンシジミ、コマシジミ等注記されている。

⑤ 『福井県誌』(1953)『緑山の自然誌』(福井県誌 Vol. 3 No. 1 pp. 47-52)の記述が詳しい。他にウスロヒロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、ウスアカミドリシジミ、ダイロンシジミ、コマシジミ等注記されている。

⑥ 『福井県誌』(1953)『緑山の自然誌』(福井県誌 Vol. 3 No. 1 pp. 47-52)の記述が詳しい。他にウスロヒロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、ウスアカミドリシジミ、ダイロンシジミ、コマシジミ等注記されている。

⑦ 『福井県誌』(1953)『緑山の自然誌』(福井県誌 Vol. 3 No. 1 pp. 47-52)の記述が詳しい。他にウスロヒロヒロシジミ、ウスロヒロシジミ、ウスアカミドリシジミ、ダイロンシジミ、コマシジミ等注記されている。



愛知県産の昆虫数種(II)

この表は Vol. 3 No. 6 に「愛知県産の昆虫数種」に採録したが、後に教達を4種追加した。このうち本種とカマキリ種とが同種ではないが、先述郡地方には比較的少ないと思われるものである。

1) *Braconia japonica*
BUTLER イホタガ

1952-III-30 御内村尾原の山林で羽化したばかりと思われる新鮮な成虫1匹を採集。其の後、全然本種を見かけていないし、採しているのが採集出来ないとところを見ると比較的少ないのではないかと思われる。本地方の本種の食草はネズミモチであろうと推察される。

2) *Galerita japonica*
BATES クビボンゴムシ

＝分布資料＝

本種は長野県での採集によることと愛知附近には比較的少ない種であるが、尾島郡御内村尾原の自宅付近にはヤブや草間に別に個体数は多い種である。6～9月にかけて普通に見られる。古い種ではないが一応記しておく。

3) *Xystrocera globosa*
OLIVIER アオスジカミキリ

1953-VIII-13 御内村尾原の自宅の燈火に飛来したものを1頭採集。あまり見かけない種であり少ない種である。

4) *Purpuricenus spectabilis*
Motschulsky ヘリプロバニカミキリ

本種は長野県での採集によることと愛知附近には少ない種なので記録しておく。目下標本は御内村にあり、詳しい採集月日は不明であるが、1947・8年の5月頃附近の山林のザインリボク(イバラ科)の白い花に比較的普通に見られ、個体数は多くないが、確実に産している種である。標本は筆者が5頭所蔵している他、天城高校生物部にも数頭あるはずである。なお、本種は長野県尾原郡によつて尾原町の山林で数頭得られている。

5) *Monochamus luxuriosus*
BATES センノカミキリ(トドマツバガナガカミキリ)〔平山・昆虫図譜にて同定〕

5、6)

1947-XI-9 に1♀を自宅で得。
No. 1952-VIII-25, 1♂を採集した。
本種と他のカミキリ類に比して少ない
卵に思われるので報告しておく。

4) *Aielocaria mirabilis*

Motsevlusky カメノコラントウ

1948-IV-29 自宅庭のステモの
花に飛来したものを一たんネットに吸
取ながら不注意からとり逃してしまっ
た。その後、全く目撃していないので
確然種がわからない。

7) *Dorcus* sp. ?

本種は1952-VIII-11 御内村田
の神社森のナラの樹液で採集したもので
外部形態は図(本号表紙参照)の
べきものであるが、本種は松山昆虫同
好会時報第3号(1953年5月)の
大船にある *Dorcus formosanus*
Miwa の図と酷似している。体長32
mm内外(大肥を除く)。

同定はいずれも専門家の方にお願ひし
ようと思つてゐるが一応報告しておく。

5) *Anastoechilus nitidulus*

FABRICIUS トラツリアブ

1947-X-22 御内村庭の自宅
庭にて採集した。さして珍しいとは思
えないが以後採集していないので記し
ておく。

No. 271 — 古市景 —

次号予告 ◊ 蜂の生態に関する諸資料(1) — *Vanessa* 属2種の

幼虫態メモ・他 — ◊ 剣山産蜂 その他短報詳誌は別紙でお予定 乞御期待 /
(広瀬眞時) (小川大石)

大山上にゴラムオオキノコ ムシ産す

資料し Vol. 3 No. 9 おとしが
み No. 256 に於て、昨月VII月28日大
山にて本種を得たこと、暫定的に報
告して来た。これが *Epicaphro*
gonitoidi Lewis と同定されたの
でここに確定的な報告をする。標本1
西京大學の片根博先生 のお返しである。

この標本の発見とて下さった中根
博先生及びその弟に改めて御礼の心
を届下さつた小野清代に御礼を
お礼申しあげます。

なお本種の分布範囲は日本長根樹園
によると、日本固有の種で、北海道と
本州の北部である。これだけの資料
から判断すると中部地方では珍しい記
録ではないかと思われる。大山上に於て
の産地に稀な記録が、若しくは初めて
のものかどうかわからない。この実は今後
の調査で明かにしたい。これに関する
資料を持っておられる方があればお知
せ願ひしたい。調査の結果は遅つて本誌
上に発表する。'54. 1 7

No. 272 — 船越俊平 —
道後山のモンキゴミムシダマシ

1951年7月21日広島県道後山に

ては他 *Diaperis lewisi*
BATES を 2 個体採集している。
No. 131 くらいで、当地ではかな
り広く飼われているのであるが一
応報告しておく。

No. 273 - 小野 洋一 紫山産甲虫雑記(II)

筆者はかつて本誌 Vol. 2 No. 4
に 1 種採集の下に紫山産甲虫 3 種
について記したが、その後 2・3
回甲虫を寫したのでここに記させて
いただく。一部資料の御呈示を受
けた小野洋一氏に謝意を表す。

註：筆者は通称 苗字とする。

4) *Prachinus scotomides* REUTENBACHER オ トホソクビゴミムシ

全国どこ所によってもかなり採
集される種らしいが、従来近畿
附近では未記録の種であった。
筆者は VI-15, 1952 当地で 3 個
を採集する事が出来た。採集場所
はミヅに放置されたワラ束の下部
でかなり湿潤な状態にあった。

5) *Uraecha bimaculata* THOMSON フタツメホソビゲナ ガカミキリ(マハズカミキリ)

本種については既に小野洋一氏
より当地で採集されたことが報告

されている。*しかしその後 1・2
当地に於ける採集記録を知るので
参考迄に記しておく。

- (1) 2 ex. No. 3 ex VI-15, 1952 若林三郎、阿部西四君採集
- (2) 1 ex. VI-13 1953 筆者採集

先に発表された小野氏の記録 2
例より前者は 6 月 10 日に 2 上記
の例は 6 月 13, 15 日に採集された
ので、これからみると 6 月中旬
の極めと短期間に出現するもの
と思われる。なお若林、阿部西君採
集のものは新の葉に飛来していた
ものであり、筆者はカシワの葉上
に静止するものと採集した。小野
氏記録の 1 例はクワの花に飛来し
たものだったと記憶する。かくの
如くこの採集範囲が広いので個体
数とかなり多いのではないかと思
う。

No. 274 - 広瀬 義躬 シオカラトンボの交尾 時刻について

昨年の 9 月 14 日の夕方、私が自
宅の庭で丁度カトリヤンマの夕顔
の盛んな飛翔活動を観察していた

* 小野洋一、1951): フタツメホ
ソビゲナガカミキリ, 本誌 1(6)

8(8)

＝生態資料＝

時、私は1対の交尾中のシオカラトンボの飛翔するを発見した。丁度自撃時刻は10時10分、あたりはだんだんと暗さが出て、カトリヤンマの飛翔活動はすでにその盛りに達していなかったが、飛んでいる虫とて夕方の秋の光の中を舞ぶカトリヤンマのみであり、本地地、しかもその虫が交尾中であることを認めた時には、私は全く異様な感に打たれた。

これは今迄例の考えどなく本地の交尾場に見られたが、今迄観察した交尾時刻が大体この頃が暑かったのははっきりしないが、記憶ではいづれも活動の激しい昼前であり、この例の如きは例外的な交尾時刻に属するのではないがと思われる。

本種の交尾時刻については記載されたもののを要面にして知らぬため、ギンヤンマについては、竹内吉蔵氏(1939)が白附巻之代(1949)**の一引いた観察があり、両氏の観察を綜合すると、“本種の交尾時刻は午前6-7時頃から午後4-5時頃迄であってそれ以外の時刻には交尾しない。時に

* 竹内吉蔵(1939):ギンヤンマの交尾時刻、あきつ2(1):36

** 白附巻之、1949):ギンヤンマの採集法と生態、新昆虫2(12):23-24

ト陰の時刻、その頃から活動を始める昆虫に代り、蛾の群を逐って多数の個体が飛翔する様子が観察されるが、この時には昼前と違って絶対に交尾しない”という。これらの事実が極めて興味深いことであり、私は今後シオカラトンボの交尾時刻をより詳しく調べたいと思っている。一般に昆虫の交尾時刻が活動時刻と一致するか否かは非常に興味ある問題であろう。そしてこれらのことはまだ殆んどわかっていないのである。

No. 275 - 広瀬茂躬一

ヒミの燈火飛来之例及び夜鳴き

ヒミの燈火飛来については若干の報告があるが、他の昆虫にくらべると比較的新しい事と思う。筆者は今夏、ヒミの燈火飛来を之例観察したので報告する。なお、観察はいずれも鹿児島県内村定庵の自宅に於てである。

1. アブラヒミ 1♂ 13-VIII-1953 p.m. 12時(午前0時) 小町

自宅の60W電燈に飛来、球籠に止ってじっとしているのを採集、別に燈火のまわりを飛び廻る様な事はなかった。外は小雨が降っており迷い込んだのかを知らない。

2. クマヒミ 1♀ 30-VIII-1953 p.m. 10時 曇り。

前記の60W電燈にむけて1♀が飛

2(10)

幼虫の腹とひらきまはなことはなかつた。成虫キアゲハは日本産紙蛾の山地型ではヘンルーダ科(キハダ、ハクワン)を食餌とすることが知られていて、キアゲハは自然状態では楕円形虫食蛾は食餌としない事を附記しておく。飼育虫No. 6, N. 12に巻類本を餌よりキアゲハにヨシキミ喰べさせるとどの巻類も食べたが、今年12月にはやめてみたいと思っている。

No. 277-広瀬義躬
= 形 態 資 料 =

腹部に一葉附番標を
有するモンキナヨウの、

1953年10月31日、倉敷市平田で採

集したモンキナヨウ1舎は腹節2少々異常が認められた。即ち腹部第5・6節下面に褐色のビロード状毛を密生した長さ2.5mm, 巾1.5mmの長方形が附着しているのであった。触れてみるとその箇所は他所に比しやや堅く感じられる。引きはかぜうと試みたが、非常に強く密着している。思うに腹部の一部が何かの影響を受けて変化したものと思われる。

参考までに記すとこの個体は長24mm, 翅幅28mmである。

No. 273-広瀬義躬

X X

X X

編集後記

12月号で小野耕一の寄稿がでいたと聞いていたと思つたら、又2私一編で送付にしようとした。原因は多岐に及ぶ。一、試験・結果のあつたが、何卒あつたとしても成す。さて本号の郵政想は、いかがでしょうか。本号は新鮮果らしく編集したつもりで送りましたが、何分郵政制度で原稿が来ない、巻頭を飾るものがなかりでせうに苦慮しました。おとしなを今回ばかりに入れて送付してみました。

さて、いよいよ本号は本会にとって三週年目に当たります。総巻を4巻に数えました。もうこのあたりで一人立ちしてごんぐん発刊したいものです。この書に何か分給会が申かけると思いますが、会の事情が有る今迄はラシクありませんでした。横江・堅立・山田目一編が送付しよう、巻の出来と共に本会の新発刊が待たれます。(本号はガリア除 廣瀬 敬澤 寄稿件更々読めたいと思つて許可)

すゞむし 第4巻第1号
(1月号)

1954年1月31日 印刷
全 上 発行

へんしゅう ぶんさの 広瀬義躬

発行所：倉敷市住吉町、回
山大学太郎農業生物研究所
作物害虫研究室内
倉敷昆虫同好会